

障害を持つ方への意思決定支援報告書 2018.2

Vol.1『どうしましたか?』計画

社会福祉法人児童愛護会 青松学園

## 1. ねらい

利用者様の身ぶり、行動、ことば、こだわりなどについて。

私たちスタッフは見慣れている行動・聞き慣れている言葉、発声についてその都

度、真意を考えたり、想像してみたり、その気持ちに寄り添っているだろうか？

意思（気持ち）をくみ取る作業として「どうしましたか？」「どうしたの？」という

言葉や身振り、もしくは何らかの発信を行うことで、利用者様の意思形成支援につ

なげていく。

## 2. 計画内容

「どうしましたか？」「どうしたの」と気持ちを受けとめる支援を行ったとき、利用者様からのレスポンス（反応）はどうかであったか、詳細に記録する。

- ① 記録ルール：「福祉見聞録ソフト「ケース項目：意思決定支援：「どうしましたか？」」にチェックする。
- ② 目標値：一日1件以上（スタッフひとりに対して）。
- ③ 期間：平成29年12月9日（日）～平成30年1月31日
- ④ 分析チームを立ち上げ、報告を行う。（利用者様、ご家族、職員に対して）

### 3. 分析・考察

記録件数 平成 29 年 12 月 9 日～平成 30 年 1 月 31 日

222 件 (12 月 151 件・1 月 71 件)

本計画を実行した結果、私たちスタッフは日ごろ利用者様の言葉や行動、こだわり等を「いつものこと」ととらえ、その結果「見過ごし」「無応答」などの支援を繰り返していたのではないかと思える点がありました。グループ活動の場面において個人より集団を優先してしまったことがある、繰り返し行われる特異な行動面にどう対応していいかわからずに素通りしてしまったことがある、もっと落ち着いた静かな環境設定をしてあげたいが諸事情によりあきらめてしまったことがあるなど、それぞれの場面ごとに理由はあるものの、支援の大切な部分を見過ごしてきたと受け止めなくてはならないと考えさせられました。

「どうしましたか?」と話しかけることは、利用者様に対して重要なリアクションであること、「即座に反応をする行為」あるいは「何かお手伝いすることはありますか」と思いを伝える行為」は相手に安心感を与える支援につながっていくのではないかと分析しました。

「どうせ言っても伝わらない」「理解してくれない」「嫌なことなのにいつもうまく諭されてしまう」と利用者様が思うことが「意思形成支援」の失敗であり、たとえ困難な場面や局面においても「自分の意思が尊重される」「気持ちを理解してくれる人がいる」と感じていただくことが、「意思形成支援」の本質なのではないかと考えることができました。とすれば、支援の基本として気を付けていかなければならない点は、利用者様の声に耳をすますこと、気持ちは伝わると信じて「どうしたの? 手伝うことある?」と声をかけていくことが意思形成支援の初歩段階であり原点であると位置づけることが重要だと分析しました。

#### 4. 本計画を実施し、今後に期待すること

意思決定支援は利用者様への「意思形成支援」「意思表示支援」がていねいに行われていない場合、効果を発揮できません。私たちスタッフは今後「意思決定支援」はどうしたら良いのか、何が必要かと悩むことが出てきた時には、この「どうしましたか？」計画に立ち戻り、何度でも利用者様の心の根幹部分にたずねてみるのが大切です。

支援は私たちスタッフが決めることではなく、利用者様が決めることです。

それを支えていくことが意思決定支援につながっていくことだと考えます。

報告書作成日

平成 30 年 2 月 13 日

社会福祉法人児童愛護会

青 松 学 園